

天龍村における村おこしの取組みについて

～天龍森林のクラブ「H I T研究会」の活動から～

長野県下伊那地方事務所 林務課
林業改良指導員 福嶋 哲也

要 旨

近年、山村を取り巻く情勢は大きく変化し、過疎化・高齢化が進む一方、サラリーマン層においては都市ばかりではなく、山村においても新しい森林利用を試みる者が見られるようになった。そこで県では平成元年度から「森林のクラブ育成対策事業」というこれら森林に関心を寄せる者から林業後継者に至る幅広い人材から成る「森林のクラブ」という新しい言わば“混血”の力を有するグループを育成し、森林・林業及び山村の活性化を図るもので、具体的に天龍村における取組みについて報告する。

はじめに

天龍村は、長野県の最南端で愛知県と静岡県に接し、人口約2,400人、森林面積約1万ha、森林率96%とスギを中心とした林業地である。村では平成7年度からこの事業を導入し、「天龍森林のクラブH I T研究会」（H＝ハイ、I＝イノベーション、T＝テクノロジー）を林業後継者をはじめ村民有志11名で設立した。今年度は山村と都市との交流を図る村おこし活動として、飯田線の特急列車を活用した「山里料理とラベンダー摘みツアー」及び地元村民を対象にした「きのこ栽培技術講習会」「間伐技術講習会」などを開催した。

1 活動内容

(1) 「山里料理とラベンダー摘みツアー」

飯田と愛知県の豊橋を2時間半で結ぶ飯田線の特急列車を活用してJRを通じて「山里料理とラベンダー摘みツアー」を平成9年6月8日（日）に開催した。村の初夏の自然を多くの人に楽しみ、知ってもらおうと企画し、家族連れなど約40人が参加し村での一日を満喫した。

午前中は創作こけしで有名な倉沢敏恵さんの指導によるミズキを使用した手描き茶卓製作体験をした。昼食は五平餅やハーブの天ぷらなどといった郷土料理でもてなし、午後はラベンダー摘み体験を行なった。



写真-1 手書き茶卓製作体験

ラベンダー摘み体験は、同会が管理している平岡駅近くのハーブ園で行ない、ハサミで一本一本切取って束にした。まだ小さなツボミながらも芳香を漂わせるラベンダーをドライフラワーやポプリにすると、もっと良い匂いがするという事で大変好評であった。

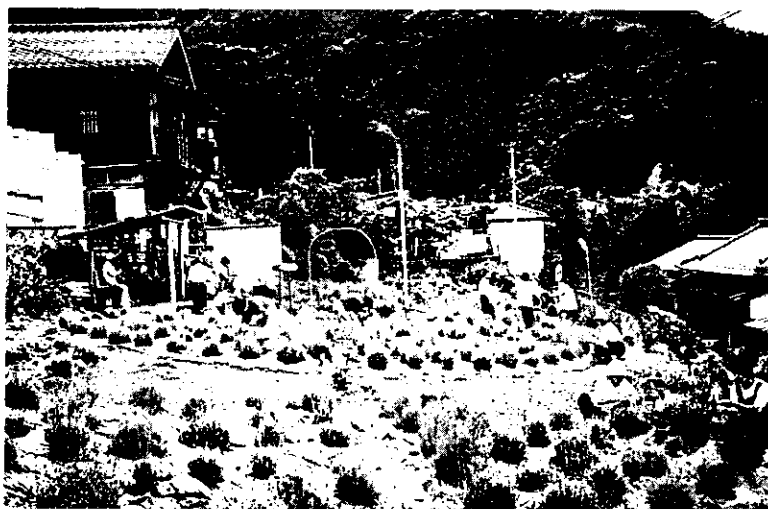


写真-2 ラベンダー摘み体験

(2)「きのこ栽培技術講習会」

10月11日(土)にまいたけ、まんねんたけといった新しい品目について「きのこ栽培技術講習会」を開催し、村内から10人ほどの参加者があった。

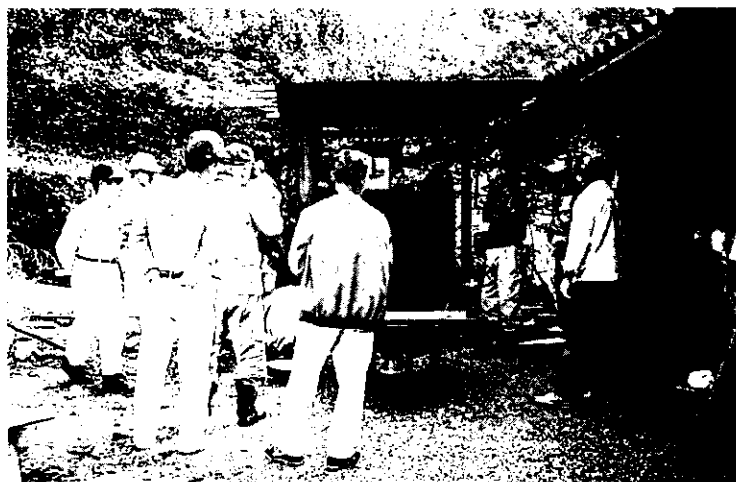


写真-3 きのこ栽培技術講習会

天龍村では以前から乾しいたけの生産が盛んに行なわれているが、それ以外のきのこ生産は行なわれていなかった。このため昨年度から研究会では、まんねんたけなどの新品目に着眼し、試験的に栽培を行ない、流通販路も含めて研究してきた。

当日は、殺菌・植菌の技術から仮伏せ、本伏せまでの方法や、出荷や流通販路に至るまで講義を行なった。参加者からは殺菌から植菌、培養までの過程が難しいという感想がありましたが、2、3人やってみたいという人があった。



写真-4 本伏せ実技

(3) 「間伐技術講習会」

12月6日(土)に間伐や枝打ち技術についての「間伐技術講習会」を開催したが、当初の日程から雨天で2週間ほど順延となったため、参加者が8人とやや低調となってしまった。

当日は、島崎元信州大学教授が提唱する「保残木マーク法」について講義を行い、実際にプロットを設定し選木からチェーンソーによる伐倒まで実習を行なった。

参加者はどれを選んで伐採したらよいか大変迷っていたのが印象的であった。

その後、リモコン式枝打機の実演や県林業指導林家である村沢崇氏から枝打ち用ナタについての説明や枝打ち技術について講義実演を行なった。

2 活動結果

3回にわたる各講習会等を開催した結果、山村と都市との交流体験を通じ、森林・林業に対する理解をより一層深め、また地元村民も「がんばらねば」といった意識が湧き、施業意欲の奮起につながった。



写真-5 間伐技術講習会



写真-6 枝打ち技術実技

おわりに

今後は、単発的な活動ではなく市町村の振興計画のなかで、「森林のクラブ」の果たす位置付けを明確化させるとともに、活動の継続化に向けた指導を行なっていきたい。

また、下伊那地域では現在三つの「森林のクラブ」が設立されており、今後は山菜、花木生産等において、民有林のみならず国有林の活用についても検討していきたい。